

## 2009年(平成21年)山のトイレを考える会 活動報告

山のトイレを考える会

### 1. フォーラム案内、ニュースレターを送付 (2009年1月14日)

第10回山のトイレフォーラム案内とNO.9ニュースレターを会員及び関連団体へ約500箇所へ送付しました。

### 2. 山岳トイレ技術セミナーへ参加 (2009年2月19日～20日)

東京で環境省主催の「山岳トイレ技術セミナー」が開催され、当会から愛甲事務局長(講師)、小枝、仲俣の3名が参加しました。テーマは「山岳における実証事例報告と各地の取組み」です。

環境省では平成15年から山岳トイレし尿処理技術について、その環境保全効果を第三者(実証機関)が客観的に実証(試験)し、情報公開する事業を行っています。いろいろなメーカーがトイレを設置、その実証試験費用を環境省が負担、平成20年度までに12技術が完了、3技術が試験中です。

詳細な報告内容は本資料集に掲載の「平成20年度山岳トイレ技術セミナー参加報告書」を参照願います。

### 3. 環境省と意見交換の実施 (2009年2月23日)

環境省北海道事務所の担当者が人事異動で変わったことから、美瑛富士避難小屋のトイレ設置要請の経緯説明を含め、北海道の山のトイレ問題について意見交換しました。

### 4. 平成21年度定期総会の開催 (2009年3月7日)

第10回フォーラム開催日の午前中に定期総会を開催しました。規約改正があり、今まで個人会員のみでしたが、団体会員も設けました。団体会員は年会費一口3,000円です。

### 5. 第10回山のトイレフォーラムを開催 (2009年3月7日)

- ・ 札幌市エルプラザで参加者51名を迎え開催しました。
- ・ 北海道大学の船水尚行教授に「先端技術としてのドライトイレ(水を使わないトイレ)」と題して講演していただきました。
- ・ 美瑛富士避難小屋へのトイレ設置を環境省に要望していますが、当会から「美瑛富士避難小屋に似合うトイレ(Ver.1)」を提案しました。この案に対していろいろなご意見をいただきました。基本的な部分では異論はなかったのですが、尿を土壌処理した後の水質が問題ないのかの議論がありました。これらの意見を踏まえてさらに技術的な話

めをしていきたいと思えます。

- ・ 黒岳石室のバイオトイレの現状報告が上川支庁からありました。尿の量が多く、水分過多でバイオトイレが正常に働いていない状況が続いています。そのため年5回ほどオガクズ交換をしなければならず、維持管理に稼動と費用がかかっています。固液分離トイレに改良するなどの検討をしているとのことでした。
- ・ 利尻山は地元の市町村や注民の皆様の努力があって、携帯トイレ推奨の山として全国的に認知されてきています。携帯トイレブースと回収ボックスの設置、携帯トイレの販売体制などのシステムが確立しているからです。さらに利尻での地域マナー「利尻ルール」を守るよう全国から訪れる登山者に呼びかけています。
- ・ 世界自然遺産である知床も携帯トイレを推奨しています。携帯トイレブースは設置されていませんが、両登山口に回収ボックスを設置。また、携帯トイレもいろいろな所で販売しています。「知床の登山マナー」も設定され登山者に呼びかけています。
- ・ 詳細な議事録は本資料集に掲載の「(前回)第10回山のトイレを考えるフォーラム記録」を参照願います。

#### 6. 美瑛町と上川中部森林管理署を訪問 (2009年6月4日)

美瑛町を訪問(愛甲・仲俣)し、美瑛富士避難小屋のトイレ問題について意見交換を実施。その後、上川中部森林管理署を訪問し、美瑛富士白金温泉登山口の入林届を登山者数が把握できる様式に変更していただくよう要請、快く了解していただきました。

#### 7. 山のトイレ案内、2009前期活動報告を送付 (2009年7月14日)

会員や賛助会員宛に「2009山のトイレ案内」「2009前期活動報告」「美瑛富士避難小屋に似合うトイレ(Ver.1)」を420通送付しました。

#### 8. 山のトイレマナーガイドのリニューアル (2009年8月1日)

初版は2004年から5年、約1万部以上登山者に配布しました。今回はトイレ紙の持ち帰りに重点を置いた内容にリニューアルしました。初版同様、デザイン編集を菅原靖彦氏にお願いし作成いたしました。配布にご協力いただける方は事務局までご連絡ください。事務局から送付いたします。

#### 9. 幌尻山荘の排泄物担ぎ下ろしに参加 (2009年8月16日、9月13日)

日高山脈ファンクラブ(樋口和生会長)主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに、当会の会員も参加しました。幌尻山荘では、屋外にバイオトイレが1基、貯留式仮設トイレ2基、山荘内に貯留式1基が設置されています。

1回目は参加者12名で219kg、2回目は参加者33名で460kg担ぎ下ろしました。山荘内トイレ、仮設トイレ便槽、貯留タンクは全て空になったそうです。

バイオトイレは水力発電機の故障で暫らく利用できなかつたのですが、修理後38日間利用できました。2005年開始したこの事業の参加者は延べ190名、人力運搬総量は約3トンを超えるとの報告でした。

#### 10. 2009全道一斉山のトイレデー実施 (2009年9月6日)

2009トイレデーは9月6日に実施しました。北海道の約30箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を一斉に行いました。

参加者は約100名、マナー袋、マナーガイドは約1,800枚を配布することができました。今回も当会の活動目的の重要な柱の一つである「トイレ紙は持ち帰りましょう」を主活動とし、山のトイレTシャツを着て登山者に呼びかけました。

今回で9回目です。日本山岳会北海道支部、さらに道央地区勤労者山岳連盟の秋のクリーンハイクでも多くの山岳会が協力していただきました。

#### 11. 山岳トイレ技術セミナーへ参加 (2009年12月11日)

環境省主催の「H21年度山岳トイレ技術セミナー」が仙台で開催され、当会から愛甲事務局長(セミナー講師)、小枝、仲俣の三人が参加しました。

セミナーの目的は、適正なトイレ尿尿処理技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促すことです。

環境省はH15年度から非放流式山岳トイレ尿尿処理技術について環境保全効果を第三者が客観的に実証して情報公開する事業を行っています。いろいろなバイオトイレ技術の申請のあったものについて、尿尿処理効果を試験しデータを公開する事業です。

今まで15技術について実証試験を実施したのですが、管理人のいる山小屋ばかりでした。ただ、この中には避難小屋に実際に運用している技術もあり、北海道の避難小屋トイレ更改時の参考になると思います。

導入事例では、神奈川県から丹沢大山地域に導入された8箇所の土壌処理方式のバイオトイレの維持管理について、また、岩手県からは早池峰山の取組み報告がありました。岩手県では10箇所の避難小屋にバイオトイレ(全て土壌処理方式)が導入されていました。

県によって山のトイレに対する取組み姿勢に相当差があることを痛感したセミナーでした。

詳細な報告内容は本資料集に掲載の「平成21年度山岳トイレ技術セミナー参加報告書」を参照願います。

以上  
(仲俣 善雄 記)